

四万温泉の旅館で発見 楯取の和歌 添えた書簡

楯取の和歌 添えた書簡

初代群馬県令の楯取素むらで見つかった。交彦の和歌を添えた書簡が流があったとされる同旅館の11代田村茂三郎(1846-1920年)宛



旅館「四万たむら」で見つかった楯取の和歌を添えた書簡

てに自筆で書かれていた。四万温泉と楯取のつながりを示す史料として、宿泊者と日帰り入浴客を対象に旅館内で公開している。同旅館は室町時代から続く歴史があり、松下村塾生だった品川弥二郎の書なども所蔵している。

同旅館によると、楯取の書簡は、1896年(明治29年)2月に送られた。「天の原(り)さきみえし 島やまも皇御国となり にくるかな」と詠んだ和歌と、宮中歌会始で詠んだ旨を伝える内容となっている。

書簡を受けた11代目は湯宿経営の傍ら寺子屋を開き、教育家、和算家としても知られていたという。楯取が旅館を訪れた時期は特定できていないが、同旅館は「至誠をもって教育政策に情熱をそ

そいだ楯取県令と熱い親交を深めていたと思われる」と説明する。今回見つかった書簡は古くから残る書画帳に保管されていた。NHK大河ドラマ「花燃ゆ」が放映中で、楯取が本県に残した足跡に注目が集まっている。11代目の田村康社長(82)は「このタイミングで見つかり、驚いている。四万温泉にとつて名譽なことであり、ありがたい。四万の歴史を知ってもらおう機会にしてほしい」と話している。